

日医ニュース

2023. 2. 5 No. 1473

日本医師会
Japan Medical Association

〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16
電話 03-3946-2121(代)
FAX 03-3946-6295
E-mail www.info@po.med.or.jp
https://www.med.or.jp/

毎月2回 5日・20日発行 定価 2,400円/年(郵税共)



トピックス

- 定例記者会見 2面
- 松本会長、岸田総理と会談 3面
- 日本医師会シンポジウム「知ってほしい/新型たばこの危険性」を開催 5面

「赤ひげ大賞」受賞者(5名) 順列は北から・敬称略 受賞者の年齢は2023年1月11日現在

尾崎真理子 医師



71歳 大阪府尾崎医院 理事

中小規模の製造業が集積する中核都市で、30年にわたり小児医療に取り組み続けてきた。共働き家庭が多い地域で子育て世帯を支えるべく、平成19年に自己資金で地域子育て支援拠点事業として、主に乳幼児をもつ親とその子どもを対象とした「つどいの広場」を、翌年には「病児保育室ウルル」を開設。赤字が続く中、尾崎医院がその運営を支え続け、開設以来14年間で12,000人以上の子ども達を預かっている。今後も子育て支援に真摯に取り組む姿勢を示している。

石島正嗣 医師



79歳 兵庫県青心会メンタルクリニック 医療法人社団青心会 前理事長

昭和53年の開業以来、精神科医療が手薄な地域で精神保健分野を支えてきた。認知症や独居老人が社会問題化する前から着目し、平成4年に認知症電話相談事業を創設。24年間1人で市民の相談に応じ、適切な医療の提供や行政につなぐ大きな役割を果たしてきた。更に自らケアマネジャーの資格を取得した他、社会福祉施設の嘱託医や小中学校精神科コンサルタントを長きにわたり務めた。心や精神について正しい知識をもってもらうための講演活動なども続けている。

桜井えつ 医師



76歳 徳島県住友医院 副院長

40年の長きにわたり、地域のかかりつけ医として昼夜を問わず、町内外の住民の医療及び疾病予防に献身的に取り組んできた。農山村地域の特性のため、山奥などへの訪問診療もこなしている。また長年、小学校の校医や幼稚園の園医として、子ども達の健康増進に努めるだけでなく、学校保健の普及向上に貢献してきた。更に通常の医療活動の傍ら、女性医師が働きやすい環境整備や性差を考慮した女性医療の推進を目指して積極的に活躍している。

藤野孝雄 医師



71歳 大分県藤野循環器科内科医院 理事長・院長

平成5年に継承開業以来、少子高齢化が進む地域で、患者に寄り添う医療を続けている。夜間当番医には積極的に参加し、多職種と連携した在宅医療にも取り組んでいる。「臼杵市糖尿病ネットワーク」を発足させ、市内における腎症からの新規透析導入は減少している。また、「臼杵市の認知症を考える会」を設立し、医師会、行政、大分大学神経内科と共同で認知症の啓発・早期発見・予防活動を続けており、科学的エビデンスを有する発症予防プログラムの開発につながった。

大久保直義 医師



89歳 鹿児島希望ヶ丘病院 理事長

昭和45年の開業以来52年の長きにわたり、医療・介護・福祉の分野で患者に寄り添い、地域医療に貢献してきた。住み慣れた地域でその人らしい暮らしができるよう老健施設やグループホーム等を開設。講演会などを通じて、地域の健康教育にも力を入れてきた。学校医として学校保健活動に尽力した他、病院には専門の小児発達外来を設け、行政とも連携を図ってきた。昭和の生活道具や昆虫標本などを展示した「重富民俗資料館」も開設し、市民の交流の場を提供している。

「赤ひげ功労賞」受賞者(15名) 順列は北から・敬称略

中野智紀 (埼玉県)
大瀧達郎 (福井県)
清水信 (三重県)
森本忠雄 (広島県)
朝長弘道 (佐賀県)

新田國夫 (東京都)
野尻真 (岐阜県)
田代博 (京都府)
八木正人 (香川県)
寺尾敏子 (熊本県)

佐藤真紀子 (神奈川県)
水本弘 (静岡県)
梅川智三郎 (奈良県)
古賀正昭 (福岡県)
嘉手苺勤 (沖縄県)

第11回「日本医師会 赤ひげ大賞」大賞並びに功労賞の受賞者が決定

第11回「日本医師会 赤ひげ大賞」(主催:日本医師会、産経新聞社、協力:都道府県医師会、特別協賛:太陽生命保険)の受賞者として、「赤ひげ大賞」5名、「赤ひげ功労賞」15名がこのほど決定し、黒瀬巖常任理事が1月11日に行われた定例記者会見で発表した。

「日本医師会 赤ひげ大賞」(以下、「赤ひげ大賞」)は、地域の医療現場にスポットを当て、その場で健康を中心に地域住民の生活を支えている医師に活躍を顕彰すること、各地の医療環境整備、医療活動の充実に寄与することを目的として、平成24年に日本医師会と産経新聞社が創設したものである。

「赤ひげ大賞」の名称は、山本周五郎の時代小説「赤ひげ診療譚」に由来して命名したもので、その主人公で、江戸時代中期に貧民救済施設である小石川養生所で活躍した小川笙船をモデルとした。賞の創設以来、毎回、5名の医師を「赤ひげ大賞」に決定、第8回には「赤ひげ功労賞」も創設している。

11回目となる今回は、昨年11月10日に日本医師会小講堂で選考会を開

催し、初試みとして、医学学生(本年度は岩手医科大学に地域枠で入学した学生4名)に選考委員として参加してもらい、「将来このような医師になりたい」という視点から、選考を行った。その結果、都道府県医師会から推薦された候補者から20名を「赤ひげ功労賞」に選定し、その中から5名を「赤ひげ大賞」に選定した(大賞受賞者の功績、功労賞受賞者の氏名は別掲参照)。

「赤ひげ大賞」は、産経新聞社が創設したもので、その創設以来、毎年、5名の医師を「赤ひげ大賞」に決定、第8回には「赤ひげ功労賞」も創設している。

11回目となる今回は、昨年11月10日に日本医師会小講堂で選考会を開

催し、初試みとして、医学学生(本年度は岩手医科大学に地域枠で入学した学生4名)に選考委員として参加してもらい、「将来このような医師になりたい」という視点から、選考を行った。その結果、都道府県医師会から推薦された候補者から20名を「赤ひげ功労賞」に選定し、その中から5名を「赤ひげ大賞」に選定した(大賞受賞者の功績、功労賞受賞者の氏名は別掲参照)。

「赤ひげ大賞」は、産経新聞社が創設したもので、その創設以来、毎年、5名の医師を「赤ひげ大賞」に決定、第8回には「赤ひげ功労賞」も創設している。

11回目となる今回は、昨年11月10日に日本医師会小講堂で選考会を開

- 選考委員
- 羽毛田信吾 (恩賜財団母子愛育会会長)
 - 向井千秋 (東京理科大学特任副学長)
 - 檀ふみ (俳優)
 - ロバート キャンベル (早稲田大学特命教授)
 - 榎本健太郎 (厚生労働省医政局長)
 - 医学学生 (岩手医科大学/令和4年度)
 - 釜范敏 (日本医師会常任理事)
 - 黒瀬巖 (日本医師会常任理事)
 - 近藤豊和 (産経新聞社上席執行役員)
 - 河合雅司 (産経新聞社客員論説委員)
- (敬称略)

日本医師会

定例記者会見

1月11日

新年に当たって



松本吉郎会長は新年に当たっての所感を述べることに、本年が卯年であることから、兎にちなんで「兎の登り坂」「鷹目兎耳」を挙げ、全力で国民の健康と生命を守る1年とできるよう、箱根駅伝のチームのような一致団結する強い医師会として、地域医師会と連携して難局に立ち向かい、全力で邁進していくとの決意を示した。

新型コロナウイルス感染症

（一）では、コロナ対応への国民の積極的な協力に感謝の念を伝えるとともに、引き続き基本的な感染防御を行い、コロナとの共生を図りながらも、コロナを引き続き正しく恐れ、この必要性を強調。また、依然と日本の人口当たりの重症者数や死亡者数が、特にG7諸国と比べて低く抑えられていることについて、国民、行政、医療関係者に対して、深く謝意を示した。

かかりつけ医機能

（二）では、これまでの議論の経緯を説明した上で、「かかりつけ医は

あくまで患者さん自身が選ぶものであり、あらかじめ誰かによって決められるものではない」と、従来からの日本医師会の考えを改めて述べるとともに、フリーアクセスにおいて国民がこの制度を活用し、適切な医療機関を自ら選択できるような支援を行っていくことが重要になると強調した。

医師の働き方改革

（四）では、2024年4月から「医師の働き方改革」の新制度がスタートすることに言及。日本医師会が、昨年4月に厚生労働省より「医療機関勤務環境評価センター」の指定を受けた後、10月から医療機関からの評価申請の受け付けを開始したことや、e-learning研修が開始されたことなどを紹介。日本医師会として、今後も「医師の健康の確保と地域医療の両立」という基本理念の下で、「制度ありきとならないよう、現場の声に耳を傾け、細心の注意を払って取り組んでいく」とした。

医療DX

（三）では、医療DXは安心・安全で質の高い医療の提供に資すると同時に、医療現場の負担軽減につながるものでなければならぬとの認識を示した上で、日本医師会の考えとして一致する医療DX政策については全面的に協力していく意向を示した。

トリプル改定

（五）では、昨年末に行われた中間年改定において、薬剤費削減額が当初の約4900億円から約3100億円となったことと併せ、大臣折衝において、令和5年度予算

組織強化

「日本医師会の組織強化」に関しては、医師会活動を自分事として認識、体験してもらうため、臨床研修医を対象に行っ

解熱鎮痛薬等に関するご協力のお願い

—厚生労働省—

季節性インフルエンザと新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、特に小児用の解熱鎮痛薬等の在庫が逼迫しているとして、厚生労働省より下記の対応に関する協力依頼が来ております。先生方におかれましてはぜひ、ご協力をお願いいたします。

1. 解熱鎮痛薬等（散剤を含む）につきましては、返品が生じないように、買い込みは厳に控えて頂き、当面の必要量に見合う量のみをご購入頂く。
2. 解熱鎮痛薬として、アセトアミノフェン製剤だけでなく、代替薬として他の解熱鎮痛薬（イブプロフェン、ロキソプロフェンなど）の使用につきましてもご考慮頂く。その際には、1.と同様に買い込みは厳に控えて頂く。
3. 小児用の散剤やシロップ製剤の不足が生じた場合には、必要に応じ、①5歳以上で錠剤が服用できる患者への錠剤の使用②必要に応じて処方医と薬剤師が相談の上、錠剤を粉碎し乳糖などで賦形して散剤とするなどの調剤上の取り組み——などの対応についてもご考慮頂く。

いる会費の減免措置を、令和5年度からは医学部卒後5年目まで期間延長するとともに、同様の取り組みを全国の医師会に依頼していることを紹介。また、業務量が増大し、多様化している日本医師会の会務について、広く役員を登用し適材適所に配置するため、会内の定款・諸規程検討委員会で議論が行われ、昨年12月には、常任理事を4名増員すべきとの答申を受け、これを報告（本紙第1472号既報）。医師会組織強化により、国民視点に立った医療の実現を

令和4年度日本医師会会員数調査結果を公表 会員総数は17万3,761人に

日本医師会は、昨年12月27日開催の令和4年度第28回常任理事会で、都道府県医師会の協力により実施した令和4年度日本医師会会員数調査（令和4年12月1日現在）の結果、会員総数は173,761人となったことを報告した。

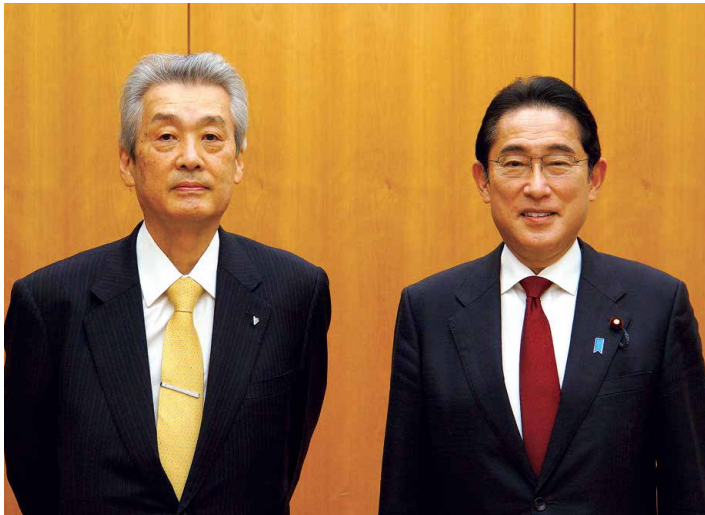
それによると、会員数の内訳は、A①会員が82,726人（構成割合47.6%）、A②（B）会員が41,127人（同23.7%）、A②（C）会員が3,526人（同2.0%）、B会員が42,930人（同24.7%）、C会員が3,452人（同2.0%）となっていた。

なお、A①会員の内訳は、病院開設者が3,860人（構成割合4.7%）、診療所開設者が69,323人（同83.8%）、管理者が8,089人（同9.8%）、その他が1,454人（同1.8%）となっている。

日本医師会会員数調査 (令和4年12月1日現在)

都道府県 医師会	会 員 数					
	総数	A①会員	A②会員(B)	A②会員(C)	B会員	C会員
北海道	5,709	2,123	1,735	9	1,692	150
青森	1,208	620	253	15	203	117
岩手	1,608	665	310	18	513	102
宮城	3,322	1,471	995	100	705	51
秋田	1,543	571	153	7	737	75
山形	1,558	656	232	13	643	14
福島	2,695	1,172	532	0	812	179
茨城	2,546	1,361	548	90	519	28
栃木	2,316	1,138	346	19	626	187
群馬	2,082	1,267	425	61	279	50
埼玉	7,207	3,539	1,048	111	2,343	166
千葉	3,938	2,933	590	16	397	2
東京	19,532	10,079	2,818	425	6,083	127
神奈川	9,671	5,607	1,494	448	1,978	144
新潟	3,297	1,197	521	26	1,460	93
富山	1,163	670	162	32	297	2
石川	1,275	695	329	102	141	8
福井	1,038	438	303	4	254	39
山梨	1,040	529	129	0	344	38
長野	2,190	1,199	436	2	550	3
岐阜	2,884	1,282	303	55	1,104	140
静岡	4,421	2,275	767	57	1,227	95
愛知	10,642	4,692	1,414	276	3,639	621
三重	2,350	1,147	499	26	477	201
滋賀	1,278	846	213	1	218	0
京都	3,196	2,112	584	141	353	6
大阪	16,221	7,474	6,014	407	2,318	8
兵庫	8,628	4,508	2,638	116	1,351	15
奈良	1,865	1,011	350	19	479	6
和歌山	1,496	877	394	7	215	3
鳥取	729	377	150	30	167	5
島根	889	455	251	9	174	0
岡山	2,503	1,296	470	32	629	76
広島	5,640	2,222	2,673	178	523	44
山口	1,992	1,036	521	30	329	76
徳島	1,524	607	363	0	547	7
香川	1,711	708	421	3	578	1
愛媛	2,731	987	1,226	84	407	27
高知	1,290	456	524	20	289	1
福岡	8,714	3,888	1,678	185	2,719	244
佐賀	1,537	627	457	69	378	6
長崎	3,271	1,090	1,440	37	632	72
熊本	3,107	1,285	763	40	980	39
大分	2,224	863	416	5	912	28
宮崎	1,841	779	355	16	612	79
鹿児島	4,036	1,134	2,325	97	479	1
沖縄	2,103	762	559	88	618	76
合計	173,761	82,726	41,127	3,526	42,930	3,452
構成割合(%)	100.0	47.6	23.7	2.0	24.7	2.0

A① : 病院・診療所の開設者、管理者及びそれに準ずる会員
A②(B) : 上記A①会員及びA②会員(C)以外の会員
A②(C) : 医師法に基づく研修医
B : 上記A②会員(B)のうち日本医師会医師賠償責任保険加入の除外を申請した会員
C : 上記A②会員(C)のうち日本医師会医師賠償責任保険加入の除外を申請した会員



松本会長

岸田総理と新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けの見直しなどについて会談

松本吉郎会長は1月19日に総理官邸を訪れ、新型コロナウイルス感染症（以下、新型コロナウイルス）の感染症法上の位置付けについて現在の「2類相当」から「5類」への変更が検討されていることなどについて、岸田文雄内閣総理大臣と会談を行った。

会談の冒頭、松本会長は、「社会経済活動と感染拡大防止、コロナ医療とコロナ以外の医療の両立を図りつつ、感染状況に見合った対策を講じていくことは必要と考えて

いる」とする一方、新型コロナウイルスへの対応を急激に変更するのではなく、徐々に緩和していくことで、ソフトランディングさせていくことが重要との考えを説明。

また、医療・介護施設等に保健所が行っている入院調整がなくなってしまうことにより、患者及び医療現場の負担が増加する、(4) 臨時発熱外来・検査施設等の位置付けを挙げ、引き続き、国・行政による支援が必要であることを強調。位置付けを見直すとしても患者の負担とならず、医療現場に混乱を招くことがないように、段階的に

行っていくよう要望した。これらの要望に対して岸田総理は、段階的に見直す必要があるとの認識を示すとともに、懸念事項については関係各所とも検討の上、対応していきたいと応じた。

その他、当日の会談で松本会長は、「医療DX」「医師の働き方改革」についても言及した。「医療DX」に関して、健康保険証とマイナンバーカードの一体化の方向性には賛意を示した上で、「マイナンバーカードを取得していない方、高齢者や認知症患者など、カードを持っていない方も使いこなせない方々が、保険料を支払っているにもかかわらず、保険診療が受けられないような事態が起これば、絶対に対処してはならない」と

強調。昨年10月の衆議院予算委員会の中で岸田総理が同様の趣旨の発言をしていたことにも触れながら、国の対応を求めた。また、医師の働き方改革については、「2024年4月から医師の時間外労働に上限規制が適用されることになっているが、各大学病院から各地域の医療機関に派遣されている医師が引き上げられることによって、地域医療、特に産科・救急に影響を及ぼすことが懸念される」と説明。「日本医師会としても、そうした事態が起これぬよう大

学病院とも話し合いを重ねていくが、大きな社会問題に発展する可能性もある。医師の働き方改革を進めていくには、『地域医療の継続性』と『医師の健康への配慮』を両立できるようにしていく必要がある」と述べ、国からの支援を求めた。これに対して、岸田総理は一定の理解を示し、この問題に関して、関係者と協議を進めていくとした。

なお、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けの見直しに関しては、岸田総理が1月20日に加藤勝信厚生労働大臣、後藤茂之内閣府特命担当大臣と会談し、新型コロナウイルスを新型インフルエンザ等感染症から外す方向で作業を進めるように指示。今後は、日本医師会から釜淵敏常任理事も出席している厚労省の厚生科学審議会感染症部会で検討が進められることになっている。

更に、「5類へ見直すことにより懸念される事項として、(1) 新型コロナウイルスに係る医療費・医薬品費に対する国の支援が縮小される、(2) 位置付けが見直されたとして

患者の負担とならず、医療現場に混乱を招くことがないように、段階的に

行っていくよう要望した。

また、医師の働き方改革については、「2024年4月から医師の時間外労働に上限規制が適用されることになっているが、各大学病院から各地域の医療機関に派遣されている医師が引き上げられることによって、地域医療、特に産科・救急に影響を及ぼすことが懸念される」と説明。「日本医師会としても、そうした事態が起これぬよう大

学病院とも話し合いを重ねていくが、大きな社会問題に発展する可能性もある。医師の働き方改革を進めていくには、『地域医療の継続性』と『医師の健康への配慮』を両立できるようにしていく必要がある」と述べ、国からの支援を求めた。これに対して、岸田総理は一定の理解を示し、この問題に関して、関係者と協議を進めていくとした。

なお、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けの見直しに関しては、岸田総理が1月20日に加藤勝信厚生労働大臣、後藤茂之内閣府特命担当大臣と会談し、新型コロナウイルスを新型インフルエンザ等感染症から外す方向で作業を進めるように指示。今後は、日本医師会から釜淵敏常任理事も出席している厚労省の厚生科学審議会感染症部会で検討が進められることになっている。

第5次医師会組織強化検討委員会

医師会組織強化に向けた検討結果

(中間報告・提言) まとまる



——で構成されている。 (一)では、松本執行部発足後の日本医師会の取り組みを説明。特に、「研修医に実施している会費減免を、令和5年度より医学部卒業5年目まで期間延長したこと」については、若手医師の医師会会員への定着、ひいては、医師会の組織強化、対外的な発言力の強化にもつながるとして評価するとともに、三層全ての医師会が足並みをそろえて、会費減免期間の延長を実施すべきとしている。

——という三つの観点から、現時点での提言を行っている。

「医師会入会の意義の徹底」では、①現在ある若手医師向け入会案内冊子『ドクターゼ』の名称を変更し、その内容についても、医師会入会の意義について分かりやすく、かつ十分な内容とする②若手医師向けに医師会入会の意義やメリット等を紹介する動画を新たに作成し、日本医師会公式YouTubeチャンネルに掲載。全国の医師会に①と②共に広く活用してもらうことを提案している。

また、「医師会入退会・異動手続きの簡素化」では、「全国の会員・医師会が共通で利用可能な入退会・異動等のWeb手続システムを日本医師会主導で構築すること」、「定年退職した勤務医の入会継続」では、定年退職した勤務医に対して、入会継続を働き掛けるよう、日本医師会から、実効性を高める情報(自宅会員「廃業B会員」などの区分を設ける等)を付記して、都道府県医師会に依頼を行うことを、それぞれ求めている。

(3)では、同委員会における今後の検討の方向性について、日本医師会が医療の主体者たる国民に向き合う姿勢や「全ての医師のための医師会」という観点も踏まえ

た方策の他、即効性のある取り組みや医師資格証の有用性を医師会入会につなげていく方策としても検討を進めていくことにも、現時点での組織強化に向けた具体的な方法・方策等をまとめたFAQなどを作成・提示していく中で、都道府県医師会を支援していく考えを示している。

■大久保吉修氏(元神奈川県医師会長/元日本医師会理事)

1月9日死去、87歳。通夜・告別式は、近親者のみにて執り行われた。氏は昭和10年生まれ。昭和36年東京医科歯科大学医学部卒業。昭和48年大久保整形外科開業。平成19年4月から平成27年6月まで神奈川県医師会会長を務めた。また、その間、平成24年4月から平成26年6月まで日本医師会理事を務めた。平成28年に旭日小綬章を受章している。

第5次医師会組織強化検討委員会は、このほど、「医師会組織強化に向けた検討結果(中間報告・提言)」を取りまとめ、1月13日に伊在井みどり委員長(岐阜県医師会会長)から松本吉郎会長に提出した。

「中間報告・提言」は、(1)組織強化に向けた日本医師会の取り組み、(2)医師会入会促進に向けたさまざまな方策(提言)、(3)本委員会における今後の検討の方向性

第5次医師会組織強化検討委員会

委員長 伊在井みどり(岐阜県医師会会長)

副委員長 猪口 正孝(東京都医師会副会長)

委員 上田 博(石川県医師会副会長)

上林雄史郎(和歌山県医師会副会長)

加納 康至(大阪府医師会副会長)

木村 剛(日本医科大学医師会会長)

田邊 晴山(救急振興財団救急救命東京研修所教授)

松崎 信夫(茨城県医師会副会長)

森永 幸二(佐賀県医師会副会長)

人事課 03-3942-6493・総務課 03-3942-6481

医療保険課 03-3942-6490・介護保険課 03-3942-6491

医業経営支援課 03-3942-6477・施設課 03-3942-7027

経理課 03-3942-6486・広報課 03-3942-6483

情報システム課 03-3942-6488・編集企画室 03-3942-6487

生涯教育課 03-3942-6488・日本医師会 03-3942-6135

会費情報室 03-3942-6140

医学図書館 03-3942-6482

電子認証センター 03-3942-7050

国際課 03-3942-6488

03-3942-7050

03-3942-7050

03-3942-7050

03-3942-7050

03-3942-7050

03-3942-7050

03-3942-7050

日本医師会シンポジウム

「知ってほしい！ 新型たばこの危険性」をテーマに開催

をより多くの方々に知ってもらうことを目的として、実施したものである。



西尾氏

シンポジウムは、フリーアナウンサーの西尾由佳理氏の司会で開会。冒頭あいさつした松本吉郎会長は、新型たばこは煙が出ないことから、健康被害も少なく安心といった誤解が生じており、その使用が増えていることに危機感を示し、「本シンポジウムで新型たばこの危険性について、より一層の理解を深めてもらいたい」と述べた。

新型たばこの使用現状や規制に関して三つの講演

その後は、三つの講演が行われた。



田淵部長補佐

日本医師会シンポジウム「知ってほしい！ 新型たばこの危険性」の収録が昨年11月に日本医師会館において無観客で行われ、日本医師会公式YouTubeチャンネルでは1月6日からその動画の掲載を始めている。本号ではシンポジウムの概要を紹介する。

本シンポジウムは、近年、新型たばこの使用者が増える傾向にある中、新型たばこの危険性

田淵貴大 大阪国際がんセンターがん対策センター長補佐は、日本医師会公式YouTubeチャンネルで「加熱式たばこ」の使用率が2019年以降はその使用率が10%を超えていることを説明。「加熱式たばこは副流煙が少ないため、受動喫煙の問題も少ないと思われがちである

が、それは大きな誤解である」と強調した。また、加熱式たばこの書については「紙巻きたばこと大差はない」と述べ、アメリカの食品医薬品局も同様の見解を示していることを紹介。「新型たばこの使用者は良かれと思って使用している人も多いことから、その使用をやめさせるためには、対話を通じて正しい情報を知らせてもらうことが重要になる」とした。

望月友美子 新町クリニック健康管理センター産業保健統括部長は、改正された健康増進法が2020年4月から施行されて以降、日本においては原則、屋内は禁煙となつたが、実際には加熱式たばこを規制の対象外としているところがあることを問題視。本来であれば、喫煙者も含め、例外なく

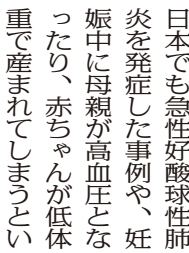
来などを活用して欲しい」と呼び掛けた。また、各国の規制の状況として、①アメリカでは、たばこの煙にはどんなに少量でもリスクがある旨の政府報告書が出されている②EUでは2040年までにたばこの使用人口を5%以下にする目標の達成のため、加熱式たばこのフレーバー(香料)の使用を禁止する提案がなされている

田那村雅子 田那村内科小児科医院副院長は、新型たばこの健康への影響について、「その全容は今後数十年かけて観察・研究をしなければ分からない」とする一方、既に日本でも急性好酸球性肺炎を発症した事例や、妊娠中に母親が高血圧となつたり、赤ちゃんが低体重で産まれてしまうといった影響が出ている他、子どもの誤飲といった問題も起きていることを報告。新型たばこであれば安心といった誤解から新型たばこの使用者が増えていることに危機感を示した。

黒瀬常任理事は、まず、黒瀬常任理事が、日本医師会として20年以上前から禁煙推進活動に積極的に取り組む、市民公開フォーラムの開催や公式YouTubeチャンネルを通じて、国民に禁煙の重要性を訴えてきていることなどを説明。特に、小冊子『禁煙は愛』については、企業での健康教育やかかりつけ医による禁煙治療の補助にも使用されていること

を、今後もブラッシュアップしていきたい」と述べた。その後の意見交換では、田淵大阪国際がんセンターがん対策センター長補佐が、加熱式たばこ電子たばこの違いについて概説するとともに、日本においても、例外のない受動喫煙の防止に向けて、他国の事例に学び議論を深めるべきだと指摘。2025年の大阪・関西万博を前に、大阪府では国の規制よりも厳しい条例が施行される予定であること

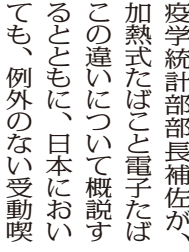
田那村田那村内科小児科医院副院長は、海外での禁煙への取り組みとして、たばこの人体への影響をリアルに示した写真をパッケージに使用している国もあること等を紹介。中高生の喫煙率はこの15年で約10分の1に減ってきてはいるものの、いまだに喫煙をしてしまう生徒もいるとして、そのような子ども達にニコチン依存の治療を促す対応をとることを学校側に要請した。



田淵部長補佐



田那村副院長



黒瀬常任理事

望月新町クリニック健康管理センター産業保健統括部長は、たばこ対策の先進国に比べて30年遅れていると言われる日本では、医療従事者が積極的に働き掛け、法整備を含めた社会の構造を変えていくことが求められていると指摘。「年間約20万人が、たばこが原因で亡くなっていることを考えれば、その対応は迅速でなければならない」と強調した。

総括を行った黒瀬常任理事は、活発な討論が行われたことに感謝の意を示した上で、日本医師会として、「今後も科学的なエビデンスに基づいた実効性のある禁煙活動・施策を目指し、真摯に禁煙活動に取り組んでいきたい」と述べ、シンポジウムは終了となった。

お知らせ

日本医師会シンポジウム「知ってほしい！ 新型たばこの危険性」の様子は、日本医師会公式YouTubeチャンネルに掲載していますので、ぜひ、ご視聴願います。

日本医師会広報課



日医総研だより

The Future Health Matrix

参加して

2022年12月7日から3日間、イスラエルのテルアビブにおいて、イスラエル医師会が主催した「The Future Health Matrix」(https://alumni.huji.ac.il/event/the-future-health-matrix-conference) に出席したので、その内容を報告する。

このカンファレンスのテーマは「医療とテクノロジーが緊密に結びつき未来の医療が生まれる」というものであった。

従来の医療の進歩は、新薬、バイオ、医療機器などが担ってきた。今後はそれらにデジタル技術、ビッグデータ解析が加わり、更なる進化をしていくとの将来予測がなされていたが、会全体を

通して「新しい技術はスタートアップ企業がつくり、それを支える投資資金が必要である」ことが強調されていた。

また「新しい技術の構築には若い医師への研修と教育が重要であり、医療の研修だけではなく、新規技術を現実化するためのビジネスの研修も必要である」とのイスラエル医師会の会長の発言には大きな驚きを覚えた。

同医師会は数年前に2団体を設立した。NPOである Institute of Medical Innovation (IMI) と株式会社である Future of Medicine and Innovation (FOMI) である。IMIは主に広報や研修を行い、医師に大企業の管理職にな

る研修や起業研修を実施する他、医師の起業支援も行っている。FOMI は投資会社であり、医師主導のスタートアップ企業に投資を行うことを目的としている。

資金は大手企業からの出資と、1万ドル程度を有望なスタートアップ企業に投資するColleague Fundingがある。当面の目標としては100億円以上の投資を行うとのことであった。

政府も医療新技術への投資はリターンが高いことを理解しており、政府からの資金も順調に集まっている。政府からの資金調達には、新規技術に対する国民と政治家の理解が必要であり、医師会

は国民、政治家に新規技術と投資資金の必要性について理解を得る活動をするべきとの発言もあった。Colleague Funding が投資をした企業は医師会が認めたというお墨付きを得るため、一般の資金も集めやすくなる。その結果、成功確率も高まり、最初に投資をした医師(医師会)のリターンは更に大きくなる。

本会議には世界15カ国から医師が集い、我々外国人医師は手厚くもてなされた。これもイスラエル(ユダヤ人)にシンパシーを持ってもらう戦略なのではないかとも思われた。

会場の最後にはイスラエル医師会事務局長より、

「今までも臨床医学は医師がつくってきた。今後のデジタル技術を利用した医療も医師の手でつくっていくべきである。医師会はその手助けをしていきたい」と締めくくられた。教育と投資、人材育成と組織化、多国籍の連携。これらがイスラエル(ユダヤ人)の神髄なのであろうと感じた。

今までのICT化において、Apple社などGAFAに既存の携帯電話、音楽、メディア産業が生態系を奪われてきた。ヘルスケア産業においても既にアップルウォッチが主要なデバイスとなっている。しかし、ヘルスケアはテクノロジー企業ではなく、医療者によって主導、デザインされていくべきであろう。

我々にも The Future Health Matrix が見られる。 (日医総研副所長 原祐一)

書籍紹介



グラム染色診療ドリル
解いてわかる？ 菌推定のためのポイントと抗菌薬選択の根拠
林 俊誠 著



グラム染色は菌を推定する検査として有用であり、抗菌薬の適正使用に当たってはグラム染色の活用が重要となる。

その一方で、グラム染色を学べる機会はいくつもなく、グラム染色を

学びたいという意欲に込めるため、研修医を対象に企画・出版された書籍が本書となる。

第1章でグラム染色の手法と顕微鏡の扱い方の基本を習得し、第2章で標準的なグラム染色像から菌を推定する40問のドリルに挑戦することができる。

更に、第3章には、染色像や病歴、検体の種類から診断の手掛かりを見付け、治療方針を導くドリルが100問収録されている。

「ドリル形式」の2章と3章は、反復学習につとめて、短時間でも学ぶことができる。

本書を読み通せば、グラム染色像から菌を推定できるようになるばかりでなく、適切な抗菌薬の選択、抗菌薬投与後の効果判定まで身に付けることができ、大変有用な一冊となっている。

全編が最新の知見にアップデートされている他、新生児の体表解剖や体表解剖に直結した臨床的な超音波画像、多くの成人の主な構造の変異やその範囲を示した研究結果などが盛り込まれている。

ポケットチューター 体表からわかる 人体解剖学 (原書第2版)
大川 淳 監訳
秋田恵一 監訳
発行 羊土社



体内の臓器を图示した多彩な体表写真により、

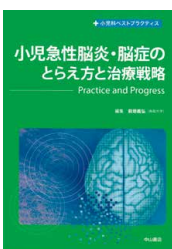
その他、体表解剖の参考となるX線像、CT、血管造影、超音波画像も多く掲載されるなど、実践性を備えた一冊となっている。

総合診療で迷えない！ むくみの原因とピットフォール
金城 光代 編
西垂水 和隆 編



読者も病歴と身体診察を行き来しながら、むくみの動的な変化を考慮することができる。豊富な症例写真と共にむくみの原因を探り、考え方を身に付けることができる。むくみ診療の指南書とも言える一冊となっている。

小児急性脳炎・脳症のとりえ方と治療戦略
前垣義弘 編



日本がリーダーシップを取り、常に牽引し続けている小児急性脳炎・脳症。本書にはガイドラインから更に踏み込んだエキスパートコンセンサスが蓄積されているだけでなく、研究・臨床の最新知見、有効性を示す症例が多数収載されている。

また、Appendixでは急性脳炎・脳症の見分け方・見分け方、症候群分類の特徴等を説明。診断が難しい急性脳症の要点を「診断のポイント」で

日本医師会医学図書館 利用案内

医学図書館は、日本医師会ホームページ(<http://www.med.or.jp>)の会員専用コーナー(メンバーズルーム)を通じて、ご自宅や勤務先などからご利用頂くことができます。

1. 各サービスのお申し込み

メンバーズルームのページから、複写、調査、貸出を申し込むことができます。複写物や調査の結果は郵便で、貸出する本は宅急便でお届けします。国内や海外の図書館からも複写をお取り寄せできます。受付から3~7日程度で発送します。お急ぎの場合はご相談下さい。

【料金】

コピー B5@10円 A4・B4@20円 A3@40円 +送料
*カラーコピー B5・A4・B4@50円 A3@80円
他の図書館から取り寄せた場合は、実費料金+依頼料+送料

2. 所蔵資料検索

雑誌、本、統計・白書などの所蔵状況を検索できます。所蔵していない資料は、他の図書館から複写などをお取り寄せできます。

郵便、FAXによるお申し込みも承っています。
詳しくは、日本医師会医学図書館（〒113-8621 東京都文京区本駒込2-28-16 TEL03-3942-6492（直） FAX03-3942-6495 mail : jmalib@po.med.or.jp）まで。

お知らせ

「医療機関勤務環境評価センター」のホームページ

「医療機関勤務環境評価センター」のホームページには、「評価受審に関する資料集」や「医師の働き方改革に関する法令・政省令等」など、医療機関が受審する際に必要な情報の他、「お問い合わせフォーム」も設けていますので、ぜひ、ご利用願います。

<https://www.sites.google.com/hyouka-center.med.or.jp/hyouka-center/>



解説するばかりでなく、難治性が多く、伝え方が難しい家族への説明の仕方を語り口調で紹介している。

小児神経医のみならず、急性脳炎・脳症の初期対応を担当する医師にとっても実臨床に役立つ一冊となっている。

定価 9680円(税込)
発行 中山書店

医業承継

地域医療を未来へ繋ぐ、医療法人の相続・承継とM&A
余語 光 著
中村慎吾 著



第1章、第2章では現在の医療法人が置かれている事業環境などの基本知識、第3章では事業承継の準備をゼロから進めるための検討プロセスをそれぞれ解説。

また、第4章では親族承継を考える場合の課題や手法、第5章では第三者承継を行う場合の手続き等が、第6章では親族承継、第三者承継に関する典型的な7例が紹介されるなど、大変参考になる。

定価 1980円(税込)
発行 ダイヤモンド社

下肢・上肢・全身・顔面・小児・複合的な原因によるむくみに章を分け、片側・両側・急性・慢性のさまざまな症例から、むくみの臨床像を解

南から北から

福島県
福島県医師会報
第84巻第3号より

あっといっ瞬間の30年

米山 高仁



12月22日は妻の誕生日で、平成の御代には翌日が天皇誕生日のため、友人達を交えて誕生日祝いをしていました。令和になり、23日が平日となったこと、新型コロナウイルス感染の恐れのために、私と二人で祝うことになってしまいました。

多です。冬の味を堪能しながら、ゆっくりとスパークリングワインを味わっていました。Kの友人が、届けておいた1991年のGRAND VIN CHATEAU L'ETOILEをデキャンターして持ってきてくれました。これが、1991年のワインではなくて、1945年のワインです。先生、驚くべき言葉。そこでよくボトルを見ると、確かに1991年の斜め下に1945年の文字。これは一体何事？ 後で知ったのですが、1945年に醸したワインを1991年にリコルクしたワインという意味でした。

当日、寒いながらも雪も無く歩きやすい道を二人で、私が先立ち、三尺下がって妻が続きます。Kに着いて、一番奥の部屋に案内されましたが、他の予約客もあって、少し待たされたのも、お祝い気分を盛り上げる効果があるというものです。まずスパークリングワインをもらい、オードブルはカニの料理と野菜サラ

ダです。冬の味を堪能しながら、ゆっくりとスパークリングワインを味わっていました。Kの友人が、届けておいた1991年のGRAND VIN CHATEAU L'ETOILEをデキャンターして持ってきてくれました。これが、1991年のワインではなくて、1945年のワインです。先生、驚くべき言葉。そこでよくボトルを見ると、確かに1991年の斜め下に1945年の文字。これは一体何事？ 後で知ったのですが、1945年に醸したワインを1991年にリコルクしたワインという意味でした。


ンだったのです。終戦後76年の敗戦国であったのが日本国の、会津若松でまさか飲まれるとは思っていませんでした。ウインはさすがに酸が多かったものの、色は少しレンガ色がかかった、それでも綺麗な紅色を残し、酸味と渋みが口に程良い味わいでした。ステーキを口に噛みながらワ

皆様は、日常生活で「炎」と暮らす機会がどの程度残っていますか？ わが家では、ガスコンロとIHクッキングヒーター、ガス給湯器、電気給湯器、石油ストーブ、エアコン、完全にオール電化となっております。5月にナチス・ドイツが降伏し、8月15日に天皇陛下の終戦の御詔勅の発せられた年です。フランスにとっては、にっくきナチス・ドイツから祖国が解放された年で、その秋のぶどうの収穫期には、きつと大喜びの農民が総出で収穫しワインの杜氏(?)さんが心を込めて醸したであろうワイ

わが家のスローライフ

石川県
金沢市医師会だより
第598号より

中島 基宏



じめしたので、その魅力を紹介させて頂きます。まずご存知のとおり、薪ストーブはとっても暖かい暖房器具の一つです。部屋の空気を単に暖めるエアコンとはちよと違います。もちろん空気がも温めますが、赤外線による輻射熱の効果も大きいです。すっきり炎とは無縁となっていたわが家に、昨年「薪ストーブ」が仲間入りしました。

薪ストーブ導入のきっかけは家のリフォームでした。私自身もともとBQや囲炉裏が好きで炎のある暮らしに憧れていたので、薪ストーブを導入しました。今回、薪ストーブを使い始め、思っていた以上に良さを感


え楽しく感じています。そして薪ストーブの最大のメリットは癒し効果だと思えます。薪が燃える炎を眺めているだけでまるで大自然の中にいるかのようで、これは1/fゆらぎによる癒し効果と言われています。1/fゆらぎとは、規則的のようでは予測できない不規則なゆらぎのことです。例えば川のせせらぎや風が木を揺らす音、木漏れ日、モーツァルトの楽曲などがそれに当たります。この中にいると、ヒトは無意識のうちに癒されていると感じるようです。

かき、癒し、家族、環境、思ふようになります。そこで、「妻と今度何食べようか」という話になった時、「あそこでやっていた〇を作ってみよう」という会話をするようになります。以前は、「何でもいいです」という感じだったので全然違いますね。土曜日に買い物に出掛け、夕方から作ります。サクラムスのソー、ブリの金砂粉揚げなど作りました。大概、おいしくできます。これをやりますと、ただの夕食が、週末の体験イベントに様変わりします。レパートリーもどんどん増えます。

料理

新潟県
新潟市医師会報
NO.614より

宮島 武文



私が料理に興味をもち始めたのは、ステイホームが言われるようになってからの、「BENETTO EXPO」というNHKのテレビ番組でした。国際放送で人気の番組が、地上波でも放送されるようになり、何気なく見ていたのです。いろんな国のキャラ弁が紹介されているのですが、その中で実際に料理をするコーナーがあるのです。それを見てみると何か簡単そうなので、自分もできそうな気にならせてくれるんです。

少し経験すると、いろいろ興味を湧いてきて、情報を集めるようになり「今日の話が出るようになりました。お寿司屋さんでは刺身の切り方、ステーキ屋さんでは肉の焼き方を細かく観察してあります。とあるお店の蕎麦湯を使ったシャブシャブがおいしかったので、早速まねしてみました。エビの頭やシッポを塩して揚げると、ビールのお供に良いということも、他店から仕入れ

て、自然に食べたい、自然に思ふようになります。そこで、「妻と今度何食べようか」という話になった時、「あそこでやっていた〇を作ってみよう」という会話をするようになります。以前は、「何でもいいです」という感じだったので全然違いますね。土曜日に買い物に出掛け、夕方から作ります。サクラムスのソー、ブリの金砂粉揚げなど作りました。大概、おいしくできます。これをやりますと、ただの夕食が、週末の体験イベントに様変わりします。レパートリーもどんどん増えます。

かき、癒し、家族、環境、思ふようになります。そこで、「妻と今度何食べようか」という話になった時、「あそこでやっていた〇を作ってみよう」という会話をするようになります。以前は、「何でもいいです」という感じだったので全然違いますね。土曜日に買い物に出掛け、夕方から作ります。サクラムスのソー、ブリの金砂粉揚げなど作りました。大概、おいしくできます。これをやりますと、ただの夕食が、週末の体験イベントに様変わりします。レパートリーもどんどん増えます。

かき、癒し、家族、環境、思ふようになります。そこで、「妻と今度何食べようか」という話になった時、「あそこでやっていた〇を作ってみよう」という会話をするようになります。以前は、「何でもいいです」という感じだったので全然違いますね。土曜日に買い物に出掛け、夕方から作ります。サクラムスのソー、ブリの金砂粉揚げなど作りました。大概、おいしくできます。これをやりますと、ただの夕食が、週末の体験イベントに様変わりします。レパートリーもどんどん増えます。

案内



令和4年度 日本医師会・日本がん登録協議会 共催シンポジウム

●開会式

日時：2月13日(月)
午後5時30分～8時30分
◆テーマ：がん登録データと個人情報保護とさらなる活用のために

◆開催形式：オンライン(ライブ配信) Zoom ウェビナー

◆申込方法：申込フォーム (<http://jaer.info/Meeting.html>) から必要事項をご入力の上、申し込み願います。

◆参加費：無料
◆定員：400名(要事前申し込み)
◆プログラム：

- ・「個人情報保護国内規制と医学系研究の課題」(松井健志国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策研究所生命倫理・医事法研究部長)
- ・「日本医師会における医療ビッグデータ活用の取り組み」(日本医師会医療情報管理機構(J-MIMO)の活動について)(長島公之常任理事)
- ・「がん登録推進法成立時の理念と現在の課題」(磯部哲慶慶應義塾大学大学院法

務研究科教授)
・「患者から見たがん登録データ活用への期待」(天野慎介全国がん患者団体連合会理事長)
- ・「がん登録データの活用促進に向けた課題」(松坂方士日本がん登録協議会理事/弘前大学医学部附属病院臨床試験管理センター准教授)
- シンポジウムⅡ「がん登録データの活用と個人情報保護」(世界の状況)
- ・「住民ベースのがん登録と臨床情報統合DBの現在」(英語)(Young-Joo Min氏 (Yonsei University, Korea))
- ・「がん登録データシェアと情報保護のあり方」(英語)(Gisee Usin氏 (Cancer Registry of Norway))
- 閉会式
・閉会あいさつ(猿木信裕日本がん登録協議会理事長/群馬県衛生環境研究所長)

食育健康サミット2022

現在、「生活習慣病を中心としたミドル世代の健康マネジメント」(吉田博東京慈恵会医科大学臨床検査医学講座教授)

◆配信期間：2月28日(火)まで
◆視聴方法：事前登録が必要となります。

◆お問い合わせ先：「食育健康サミット2022」のウェブサイト (<https://kenkousummit2022.portal.admt.tv/>)
◆プログラム：主権者あいさつ(松本吉郎会長他)

◆問い合わせ先：日本がん登録協議会事務局
03-3547-1599
Contact@jpo-jaer.jp

故安倍晋三元首相を偲ぶ

感染症流行の以前からのご数年、夏季休暇時に好きだったはずの海外旅行に行かれず、富士のふもとゴルフ場を訪れることが増えた。たまたま8月16日にプレーすることが続き、結果として



最終記念日には公務をされ、翌16日は夏休みで、よくプレーに来られるとのこと。別荘がすぐ近くにあり、しばしば警護と思わしき車両にも遭遇した。

そこで故安倍晋三氏をお見かけすることが度重なった。聞けば8月15日の

クラブハウスで、おはさま方にせがまれ肩を並べて笑顔で写真撮影に

◆お問い合わせ先：日本がん登録協議会事務局
03-3547-1599
Contact@jpo-jaer.jp

ご参加下さい！ 第31回日本医学会総会 2023東京

「第31回日本医学会総会 2023東京」が本年4月に、「ビッグデータが拓く未来の医学と医療～豊かな人生100年時代を求めて～」をテーマに、東京国際フォーラム及び丸の内・有楽町エリアを会場として開催されます。

プログラムの内容等につきましては、下記のウェブサイト等をご参照の上、ぜひ、ご参加願います。

第31回日本医学会総会 2023東京

- 会期
[学術集会] 2023年 4月21日(金)～23日(日)
[学術展示] 4月20日(木)～23日(日)
[博覧会] 4月15日(土)～23日(日)
- 会場
東京国際フォーラム及び丸の内・有楽町エリア
- 開催形式
現地開催+WEB開催(ライブ配信及びオンデマンド配信)
- ウェブサイト
<https://isoukai2023.jp/>



全国国民年金基金

日本医師・従業員支部 案内

確定申告が必要な方はお手続きをお忘れなく！

確定申告の手続きが開始されます。

国民年金基金の掛金は、全額が社会保険料控除の対象となる税制上の優遇措置が設けられています。

また、基金の年金には、

◆問い合わせ先：「食育健康サミット2022」事務局 [big-wave.tokyo](mailto:big-wave@tokyo-shokai-ku2022@big-wave.tokyo)

では、確定申告において、未加入の方は、この機会に国民年金基金への加入をご検討願います。

また、基金の年金を受給中の方については、先月送付した「公的年金等の源泉徴収票」の添付が必要となります。それをご確認の上、必要な手続きを忘れずにお願います。

国民年金基金は、国民年金に上乗せを行う「公的年金制度」として、税優遇を活かして老後

